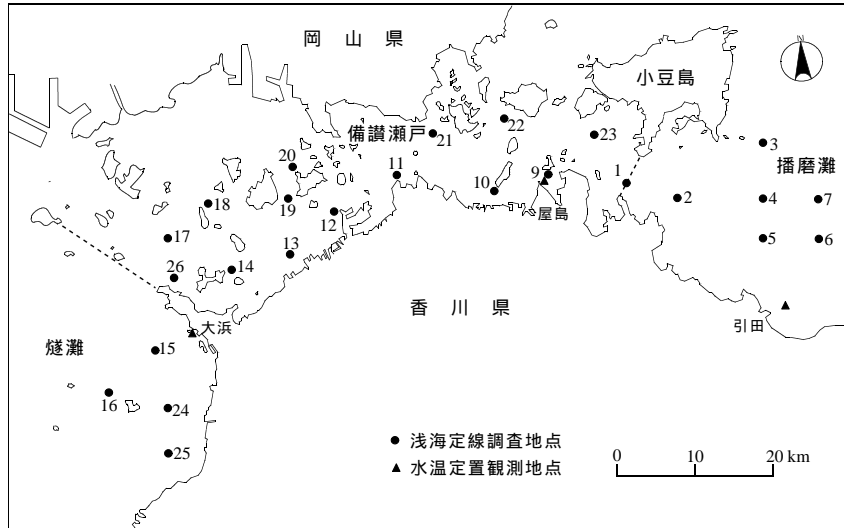


香川県漁海況速報 平成19年 1月 (H18-10号)

香川県水産試験場

1. 海況

1) 観測地点



2) 浅海定線調査

(1) 調査日

平成19年1月9日 (播磨灘) 10日 (備讃瀬戸、燧灘)

(2) 水質概況

平年と比較すると、水温は「やや高めからかなり高め」、塩分は「やや低めから平年並み」、透明度は「かなり低めから平年並み」、溶存酸素は「かなり低めから平年並み」であった。
 平年偏差 = 平均値 - 平年値

		水温 (°C)			塩分 (PSU)			透明度	溶存酸素 (ml/L)	
		表層	10m層	底層	表層	10m層	底層	(m)	表層	底層
播磨灘	7地点平均値	13.2	13.2	13.3	32.0	32.0	32.0	7.6	5.59	5.57
	平年値	12.5	12.4	12.4	32.5	32.5	32.5	7.7	5.96	5.92
	平年偏差	0.8	0.8	0.9	-0.5	-0.5	-0.5	-0.1	-0.37	-0.35
	状況	やや高め	やや高め	やや高め	やや低め	やや低め	やや低め	平年並み	かなり低め	かなり低め
備讃瀬戸	14地点平均値	13.1	13.1	13.1	32.2	32.2	32.2	6.0	5.84	5.84
	平年値	11.9	11.8	11.8	32.6	32.6	32.6	5.6	5.96	5.97
	平年偏差	1.2	1.2	1.3	-0.4	-0.5	-0.5	0.4	-0.12	-0.13
	状況	かなり高め	かなり高め	かなり高め	やや低め	やや低め	やや低め	平年並み	平年並み	平年並み
燧灘	4地点平均値	13.9	14.0	14.0	32.6	32.6	32.6	4.8	5.68	5.69
	平年値	12.5	12.5	12.6	32.8	32.8	32.9	7.5	6.05	5.93
	平年偏差	1.4	1.5	1.5	-0.3	-0.3	-0.3	-2.7	-0.37	-0.24
	状況	かなり高め	かなり高め	かなり高め	平年並み	平年並み	平年並み	かなり低め	かなり低め	やや低め

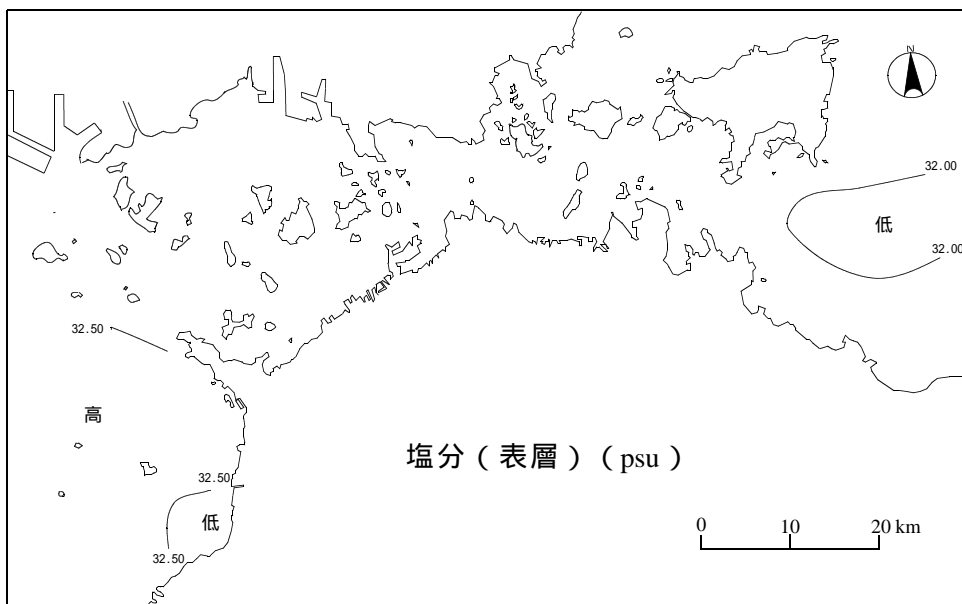
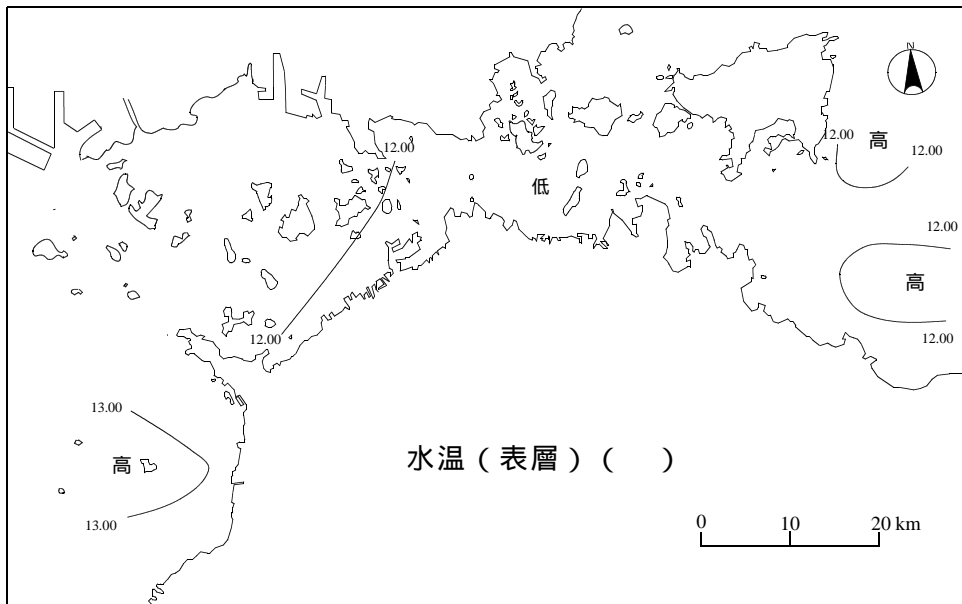
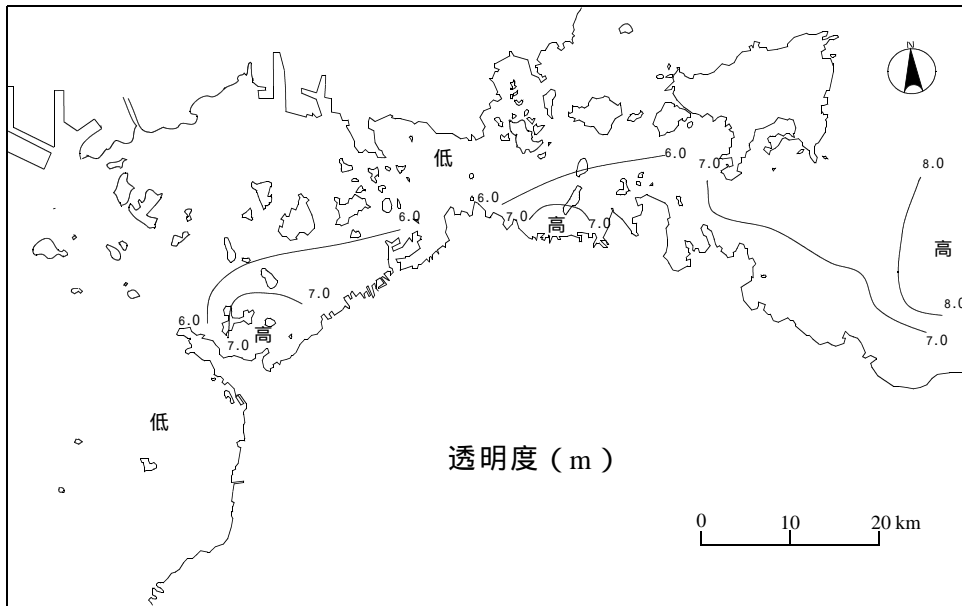
平年値の算出期間

水温、塩分及び透明度：昭和48年（1973）1月～平成13年（2002）12月

溶存酸素：昭和48年（1973）2月～平成13年（2002）12月

水温は、毎月1日の値に補正。

平年並み	0	平年偏差 < 0.6	(: 標準偏差)
やや高め (やや低め)	0.6	平年偏差 < 1.3	
かなり高め (かなり低め)	1.3	平年偏差 < 2.0	
著しく高め (著しく低め)	2.0	平年偏差	



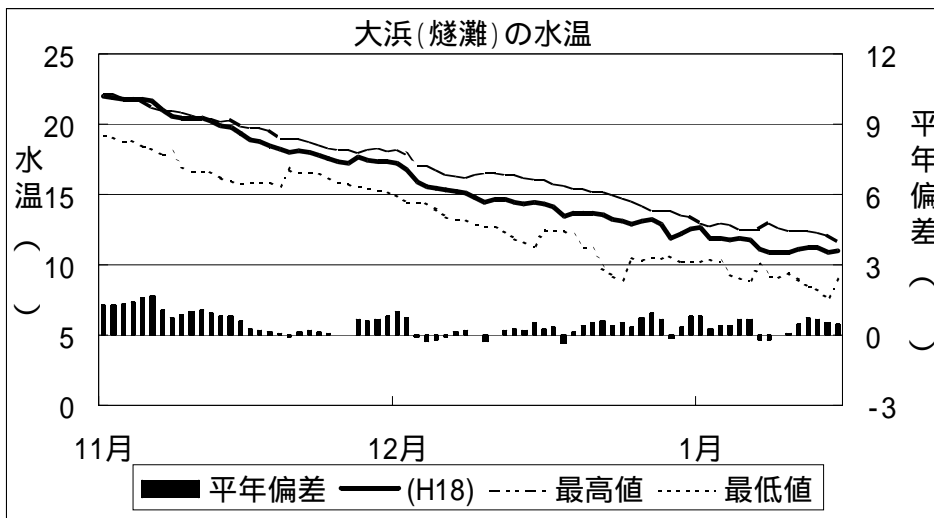
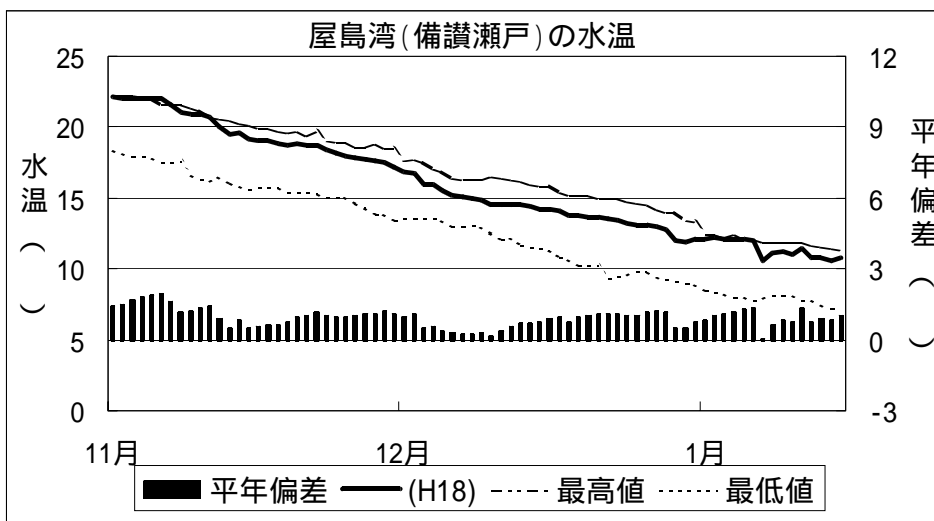
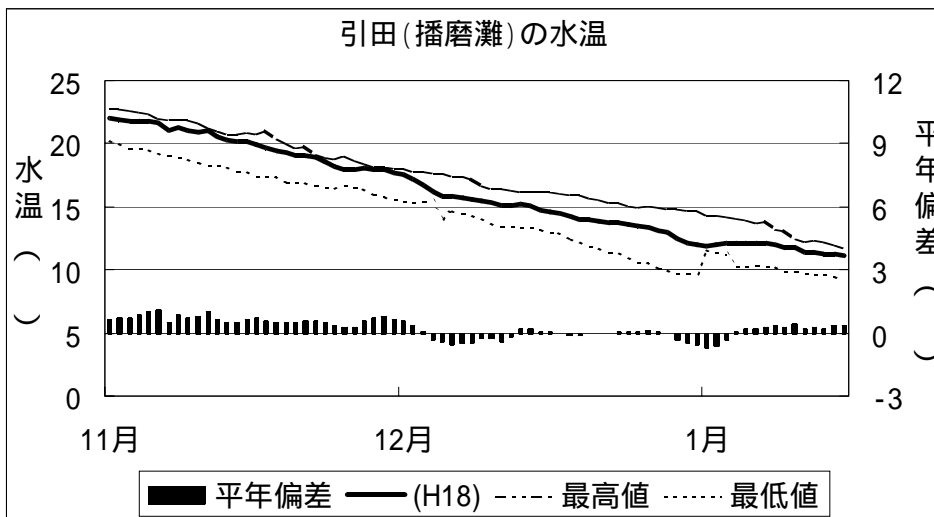
3) 定量観測(水温)

播磨灘(引田): 12月前半は平年値よりやや低め、後半はほぼ平年並み、年末年始はやや低め、1月以降はやや高めで推移している。

備讃瀬戸(屋島): 12月以降も平年値より0.5~1.0 程度高めで推移している。

燧灘(大浜): 12月前半はほぼ平年並み、12月後半以降は平年値よりやや高めで推移している。

平年値の算出期間 引田及び大浜: 平成元(1989)~平成17(2005)年
屋島: 昭和50(1975)~平成17(2005)年



4) 赤潮

播磨灘：発生なし。
備讃瀬戸：発生なし。
燧灘：発生なし。

5) 卵稚仔

調査日：平成19年1月9日（播磨灘）、10日（備讃瀬戸、燧灘）

出現量

個（尾） / 曳網

	カタクチイワシ		マイワシ		サワラ		その他の魚類	
	卵	稚仔	卵	稚仔	卵	稚仔	卵	稚仔
播磨灘平均	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.25	2.75
備讃瀬戸平均	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	7.73
燧灘平均	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.57
総平均	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.07	4.73

対平年値

	カタクチイワシ		マイワシ	
	卵	稚仔	卵	稚仔
播磨灘平均	-	0.0%	-	0.0%
備讃瀬戸平均	-	-	0.0%	0.0%
燧灘平均	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
総平均	-	0.0%	0.0%	0.0%

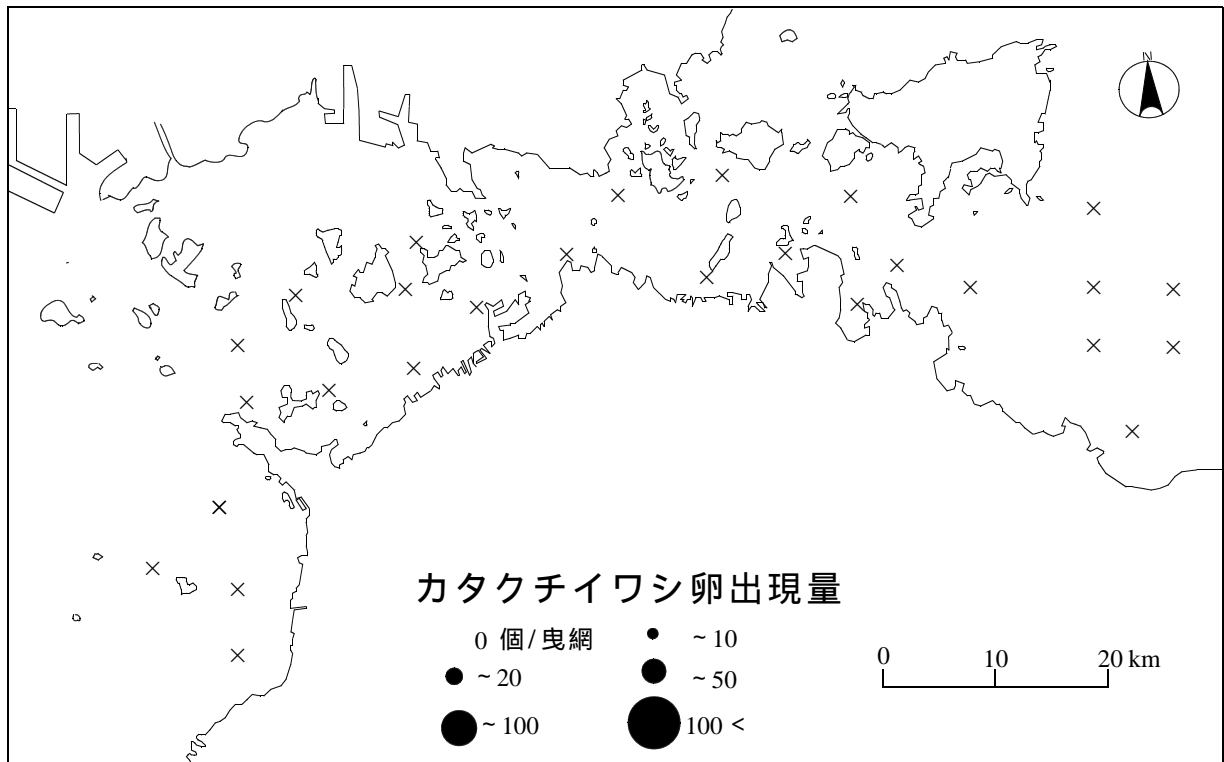
- : 平年値が0の場合を示す。

平年値の算出期間

カタクチイワシ：昭和55（1980）～平成17（2005）年度

マイワシ：平成5（1993）～平成17（2005）年度

各調査点でカタクチイワシ卵の出現は、次のとおりである。



2. 漁況

12月からの漁況は次のとおりである。

海 域	漁 況
播 磨 灘	底びき網では、主にウシノシタ類、スズキ、マコガレイ、小型エビ類が漁獲されている。建網では主にマコガレイ、メバル、カサゴが漁獲されている。柵網では主にマコガレイ、スズキ、ウマツラハギ、マダイが漁獲されている。
備 讃 瀬 戸	底びき網では、主にウシノシタ類、メイタガレイ、マコガレイ、イイダコ、マアナゴが漁獲されている。中讃・高松沖の12月のタイラギ潜水器漁業の漁獲量は前年より2,3割少ない80～100 kg/隻・日程度であった。高松沖のイカナゴ込し網は1月15日から操業が開始された。
燧 灘	底びき網では、主に小型エビ類、メイタガレイ、マコガレイ、イシガレイ、ウシノシタ類が漁獲されているが、ウシノシタ類の漁獲が少ない。